

## 町村議会広報クリニック研修会

清水町議会議員 山本 奈央

全国町村議会広報表彰審査委員であり、各種広報アドバイザーを長年なさっている長岡光弘氏のお話を伺いました。

広報を編集するにあたって、文章を読むときに人の視線がどう動くかを考えてレイアウトする。左綴じ、右綴じにおいてのタイトルの配置について。文字は大きければ読みやすいわけではなく年齢や特性に関わらず見やすいユニバーサルフォントやカラーにする。写真の使い方のコツ。写真の選び方のコツ。今切り抜き写真が流行ってきていること。写真のなかに文字を配置する場合の注意点。文章の揃え方や、読みやすい文章の長さにするため分割して配置すること。議会と町民の方の情報が広報の中でも相互関係になるようにすること。実際に発行されている各地の議会広報を例題にあげて、グッドポイント、アドバイスポイントとわかりやすく説明して下さいました。

北海道当別町は札幌での議会広報クリニックに続き東京でも取り上げられており、札幌で伺ったアドバイスと重なる部分はあったが、更に改善したらもっと良くなるアドバイスももらっていた。岩手県金ケ崎町の議会広報はずっと表紙に双子ちゃんの写真を使っているそうでアイデアが面白く、長年続けていることに驚いた。人口が減ってきて双子ちゃんが見つからなくなって来たので、双子ちゃんのその後を追った写真も使い、読者としても成長が楽しめるように工夫されている。宮城県の山元町議会広報は200号特別号でタイトルが過去の復刻版であり、内容も振り返る内容で住民としては懐かしく思えるのでよいが、ただ町の歴史を振り返るのではなく併せて議会の歩みも振り返ったら良かったとアドバイスももらっていた。

私は、いままで家事と育児を大切に過ごしてきました。私は政治初心者であり、理解することも時間がかかる。だからこそ私ができることは、今までは知る機会がなかった方にも伝えるように伝えること。今回長岡氏の言葉で特に感動したのは『うちの議会だよりはココがいいんだ！と熱く語れるくらい心を込めて議会だよりを作ること』

主婦でもあり母でもあるわたしはその目線で

ママさんや子ども達にも

『伝わる議会だより』を作りたいと改めて思いました。各地の議員さんとも名刺交換をさせていただきました。他の議会の方と交流会することで、どんどん良い輪が広がることを願っています。